

あゆみ通信

VOL. 104

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進員連絡協議会)
会長 浪花 博
広報 本持 喜康

心得たと思うは心得ぬなり



和田稠(しげし) 師

蓮如様の「心得たと思うは、心得ぬなり」というお言葉があります。「わしは分かった」

という「わし」というものが付く限り、何もわかっていない。真宗というものを自分のモノサシに合わせて理解しただけや。

どうでしょうなあ。真宗、真宗と言っとるけれど、実は自分の持っているモノサシを言っておるのです。そしてそのモノサシに合うと、「今日はええお話やった」モノサシに合わないと、「何も有難うなかった」そうすると初めから「聞く」ということが無いんですね。自分の今日まで作り上げてたモノサシをしっかり握りしめて、それが壊れたら大変やと。するといつのまにか、親鸞聖人のお言葉よりも自分のモノサシの方が大事になってくるのです。それじゃあちょっと具合が悪いから、今度は無理して親鸞聖人が私のモノサシを守っておってくださると。親鸞聖人まで守り神にしてしまう。そういうことになりませんか。そういう宗教だったらまったく魅力がありませんね。

(和田稠「広島・非核非戦の集い」から)

聞法会案内

日時 2017年8月25日(金)
午後2時から
会場 唯専寺(浪速区敷津西)
内容 「共に学ぶ『正信偈』」
お勤め、法話
講師 新田修巳先生
(平野区 正業寺)
参加費 500円
持参 赤本、念珠など



これからの行事予定

●あゆみの会&朋友 会合同研修会

日時 2017年9月26日(火)
午後1時30分から
会場 稱念寺(天王寺区夕陽丘)
内容 法話
講師 藤井 真隆氏
(即應寺 副住職)



●あゆみの会総会

日時 2017年12月17日(日)
午後2時から
会場 了安寺(天王寺区生玉)
内容 総会、法話、懇親会
講師 王来王家(おくおか)純也先生
(大阪教区駐在教導)
参加費 2000円(お
斎料など)詳細別途。



第4期推進員養成講座「共に真宗に聞く会」が前期講習最終回に



7/8 第4回本講座風景

昨年からスタートした第2組第4期推進員養成講座「共に真宗に聞く会」が、9月2日(土)の第5回講座で、前期講習を終えることに。受講者は10名と少数ながら、回を重ねるごとに、お寺という垣根を超えたつながりが出来、発言も積極的にされている。ぜひとも全員が本山研修を終えられ、あゆみの会に迎えたい。

書は以って声を伝う

近年、情報化が進みパソコンやスマホが席卷している。かくいう自分も、いろいろお世話になっている。反面、手での文章が書けなくなり、漢字も忘れていく。かの聖徳太子が「勝鬘經」を読んで「勝鬘夫人の声が聞こえる」と言ったところ、周囲から「これはただの文字ではないか」と言われて、聖徳太子は「声は以って意を伝え、書は以って声を伝う」と言われたと「勝鬘經義疏」に書かれている。

利便性を求めるが故に、言葉と人間の心が乖離し、書くことを忘れてしまった結果であろうか。改めて、太子の言葉を噛みしめ、自戒してる。(本)

仏説は仏弟子によって証(あか)される 安田理深

第2回例会報告



2017年6月22日(木) 午後1時30分から天王寺区の了安寺(海老海恵幸住職)をお借りして、第2回例会と臨時総会が開催され、12名が参加した。講師には、永年に渡り難波別院で駐在教導として推進員のお世話された竹中慈祥先生で、4月から法務部長としてご多忙

のところをおいでくださったものである。例会は事務局の進行で、真宗宗歌斉唱で始まり、浪花博会長の御挨拶と新組長として海老海住職に御挨拶をいただいた。続いての法座は竹中先生より「歎異抄」第2章について、「歎異抄とは」親鸞聖人、蓮如上人など、歴史的経過と意味について。また、「私たち推進員が何をすべきか」を学び取る教材として、自らの学びと御門徒さんとの念仏生活等を紹介されながら、丁寧にお話をいただいた。

休憩後の座談は、吉田副会長の進行で、短い時間の中で活発な意見が出され、恩徳讃斉唱で終了した。

「新・大推協」に参加決まる

引き続き、臨時総

会が開催され、事務局の進行で、出席12名、委任状19名で成立が報告された。次いで



浪花会長と細川副会長から、臨時総会の趣旨説明があり、大阪教区で全組を対象に検討されていた

「大阪教区推進員連絡協議会」が結成の運びとなり、第2組からもかねてより浪花会長と細川副会長が参加されていた。今回の結成で効果的な役割を果たすべく参加を確認し、今後の組織の中で3名の実行委員を選出することになる。また、第2組に対しては、会費の上納があるので第2組で助成をお願いしたいなど報告があり、参加者全員で確認された。

(なお、7月に開催の組会で、組推協会費について助成が承認された。) また、実行委員は事務局提案の浪花博会長と細川克彦副会長、吉田雄彦副会長を選任して終了した。

竹中先生法話要旨

(命がけで関東から親鸞聖人を訪ねてこられた人々に) 親鸞聖人は、皆さんが思っておられるお念仏のころろざし、聞法の思いはすこいなと褒めておられる。それは「ひとえに往生極楽の道をちきかんがためなり」ここで確かめてお



かねばならないのは、推進員さんとして聞法するというのは何のためか。「往生極楽の道を問い聞く」ためなのです。聞いた仏教を武器にして、他人をぼろくそに言う私たちの一面は無いでしょうか。でも、親鸞聖人は「念仏より他に往生の道はあるかね」と言われます。親鸞聖人は最後の結論を言われます。「お念仏ひとつなのだ」と。(中略)

皆さんが南無阿弥陀仏される姿は、他人に「あの人は『南無阿弥陀仏』されている」ことを伝えています。「大乘菩薩道」です。菩薩は自分の利益のために修行をしているのではないのです。自分のものは全部投げ打って、周りの人に南無阿弥陀仏しておられるのを伝えているのです。何も考えなくても出来る。それが行です。その姿は、無茶苦茶信心が定まっている人と一緒なのです。「真実の信心は必ず『南無阿弥陀仏』がついてくるけれど、南無阿弥陀仏には信心はついて来ないかも知れないよ」と「教行信証」に親鸞聖人が書かれています。

皆さんが聞法会を繰り返されている中で、言葉に出会うと「ああ、そうだな」とその内に、「信」に出会われると。(要約は事務局です)